

# 前橋市観光ビジョン(素案)【概要版】

令和8年度～令和17年度

## 策定の目的

将来にわたる前橋観光の方向性を共有し、まちが一丸となって「**持続可能な地域観光**」を実現することを目指すため、「前橋市観光ビジョン」(以下「本ビジョン」)を策定します。

## 計画期間

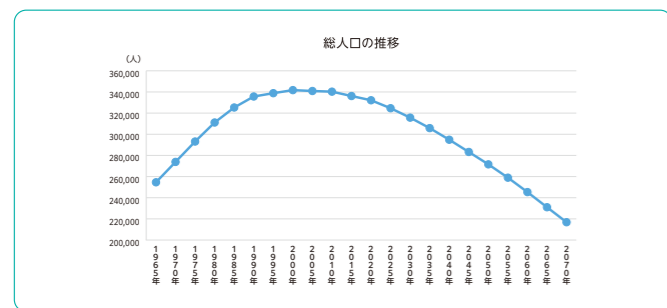
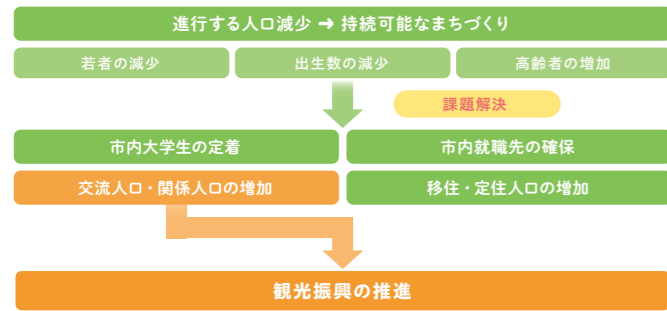
令和8年度から令和17年度までの10年間を通じて**持続可能な地域観光**の実現を図ります。また、5年を区切りとして令和12年(2030)年度に中間的な見直しを行うこととします。



## 観光の位置付け

人口減少が進む中、消費額や経済活動の維持、また地域の活力を維持・向上させるためには、『観光』を通じた「**交流人口**」や「**関係人口**」の創出が重要になります。

■前橋版総合戦略における観光事業の位置づけ



様々な関連産業と連携しながら、前橋市全体が一体となって推進していくことを目指します。

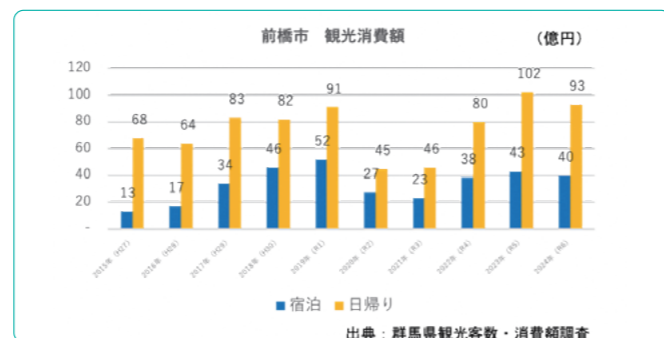
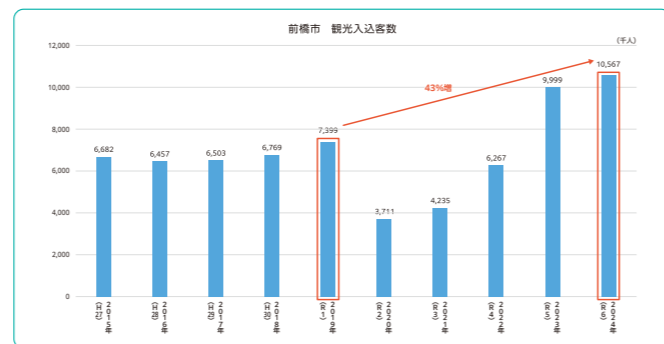


## データから見る前橋市の現状

客観的にみた前橋の現状を把握すべく、統計データ等による分析を実施

### データ分析概要

- 観光入込客数は多いが、観光消費額や宿泊数が少ない
- 前橋市を訪れる目的はあるが滞在する理由が乏しい
- 滞在型観光に伸びしろが期待できる



出典：群馬県観光客数・消費額調査

## 前橋市の目指す観光の姿

前橋市観光ビジョン × 10年後の前橋観光の目指すべき姿

「雄大な赤城山の自然」と「まちなかに息づく豊かな文化」による魅力を結び合わせ、

前橋にだけ流れる時間をゆったり楽しむ滞在型の観光スタイルの実現を目指します。

## 『赤城の自然とクリエイティブの街が紡ぐスローリゾート前橋』

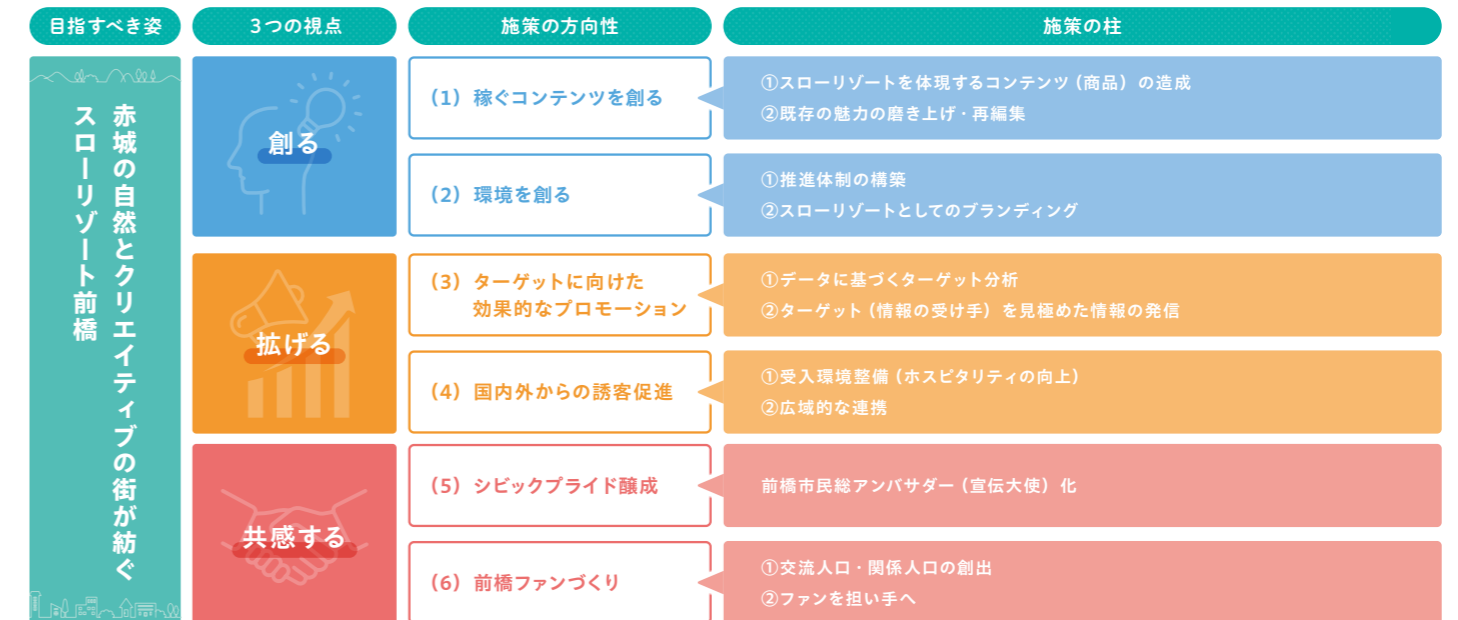
### コンセプト

赤城山頂から南麓エリアでは、深呼吸したくなる豊かな自然が四季折々の風光を織りなし、そこに広がる田園がどこか懐かしい日本の原風景を感じさせます。赤城山にあるゆったりとした時間の流れは、訪れる人々の心を強く惹きつけます。

一方、まちなかエリアでは、アートや文学、広瀬川・馬場川の水辺空間とレトロな商店街のノスタルジーが共存する街並みが魅力です。

この二つの柱を軸に、**日常の延長を過ごすという本来の「リゾート」の意味に立ち返り**、時間や自然をゆったり楽しむことを重視した「スローリゾート」として、自然・食及び文化、人と人を紡ぐストーリー性を大切に、前橋市の日常の姿を高次化/高質化して提供していきます。

## ビジョンの基本的な方針



## ビジョン実現に向けたロードマップ

- STEP1 「スローリゾート前橋」の浸透に向け、コンテンツの造成
- STEP2 滞在時間が延びることで、日帰り型から宿泊を伴う滞在型観光となり観光消費額UP
- STEP3 地域産業が活性化し雇用の創出へと繋がる
- GOAL 「持続可能な地域観光の実現」、すなわち「稼ぐ地域観光」を実現

